



川島正寿議員

問 行財政改革の具体策は

答 危機意識・改革意欲を共有

問 国・地方を通じた厳しい財政状況である。住民と協働し、首長のリーダーシップの下、職員と危機意識、改革意欲を共有し、行財政改革に取り組むことが求められている。次の項目への取り組みは。

- (1) 定員管理の適正化と組織機構
- (2) 給与の適正化
- (3) 定員、給与の状況の公表
- (4) 福利厚生事業
- (5) 人材育成の推進

答 (山口町長)

(1) 定年退職者の3割を補充し、10年間で現在265人を44人減とする計画である。この具

体化には、本庁・総合支所方式についての議論が必要。

(2) 昭和38年以来、50年

ぶりに給与構造改革が行われ、平成18年4月から4・8%引き下げ

(5) 分権社会にふさわしい人材の育成が急務である。大山町の将来像と行政のあり方などを踏まえ、人材育成に関する基本的な方針を定め、取り組んでいる。

職務責任、勤務実績に応じた人事評価制度の導入。55才以上の職員の昇給幅を半分程度に抑制することが報告されており、適正化が図られる。

(3) 「大山町人事行政の運営等の公表に関する条例」に基づき、公表している。

職員の任免及び懲戒処分、給与、勤務時間その他の勤務条件の状況、研修及び福利厚生に関する状況を公表することになっている。

(4) 職員相互の扶助と親睦を図るため、職員互助会を設置し運営している。

問 観光大山の推進策は

答 民間の協力が大事

問 大山を中心とした観光地の充実が進められている。

11月20日、京都府県主催「とっとりウォーク」が開催された。名和長年公戦死の地、名和児童公園も会場の一つであった。

町内の有志4人が、パンフレットを配布、「名和公ゆかりの地」の宣伝を行っていた。

現在、名和神社の一部は台風で破損し、無残な姿である。修復も遅々として進まない。

全国に誇れる神社で観光大山の一つである。役立てるべきではないか。

答 (山口町長)

京都での「とっとりウォーク」には、600人の参加者があった。地元から4人参加し、後醍醐天皇や名和長年公にまつわる説明を行った。本町の大きなPRになった。

ボランティアの皆様

の熱意に、今後の観光

問 こわい街灯がほしい

答 教育委員会を中心に検討

問 大山中学校の生徒から、街灯を付けて欲しいとの声を聞いた。下校時に暗く、こわいと言う。名和中、中山

大山町の取り組みべき道しるべを感じた。

名和神社は大山町観光の大きな

資源であり、その役割を果たすに十分である。

しかし、政

教分離の原則から、町の直接関与は難しい。

早急な修繕は同感であるが、奉賛会の組織化

により、動きが出てきた。重要

中の生徒も同じ思いだ

と思う。早急な設置を望む。生徒、一町民の生の声である。

答 (山口町長)

通学路の安全対策については、防犯灯の設置も含め地域ぐるみで、教育委員会を中心に、早急に対応、検討する。

な資源であるのでみんな

で守りたい。



名和長年公の説明をきく参加者